



ニアカ
(日本の小説)

2023年10月

『5分で本を語れ チームでビブリオバトル!』

赤羽 じゅんこ 作 (偕成社)

うくも ういち 絵
浮雲 手一

中学2年生の童夢は、本が大好きで読書部に入っています。そんな彼が校内のビブリオバトルで、自信満々にお気に入りの本について熱く語るも、敗北してしまいます。しかも、その相手は本をほとんど読まない放送部の吉住さくやです。童夢はさくやに勝つために、落語研究会のユメ丸とともに特訓をはじめます。

相手に伝わる話し方のコツや、読書部の仲間やバトル参加者たちとの交流など、勝ち負けだけではなく、ビブリオバトルの魅力が伝わるお話です。

令和6年(2024年) 秋・冬号



茨木市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

おもしろい本 みつけた!

《中学生・高校生》

1年の間に図書館に入った本を中心に、幅広くおもしろい本を紹介します。

★ホームページにものっています。
気になる本をみつけたら、さっそく探してみよう!



茨木市立図書館
おすすめ本のページ



369-23
(災害救助の本)

2023年1月

『もしもワニに襲われたら』

ジョシュア・ペイビン 作 (文響社)

デビッド・ボーゲニクト 作

梅澤 乃奈 訳

「スマホをトイレに落としたり」、「ワニに襲われたら」など、役立ちそうなものから起こりそうもないことまで、さまざまなシチュエーションが満載のサバイバルブックです。日本では起きる可能性が低いものでも、「へえ〜」と思いながら読み進んでいくうちに、「これは役に立つかも?」と思う事例があるかもしれません。

災害や危険は突然起きます。この本に載っているシチュエーションへの対処法を一度考えてみることで、人生のさまざまな危機に対応するヒントになりそうです。



『いとエモし。 超訳 日本の美しい文学』

koto 作 (サンクチュアリ出版)



918-0
(文学)

2023年4月

文学と聞いただけで「難しそう」と思った人こそ、ぜひ読んでみてほしいです。「枕草子」や「古今集」「方丈記」等々、一度は読んだことがある人も、古くて難しいイメージを軽やかに超える超訳に驚くかもしれません。

色々な古典文学が、今のリアルな言葉に姿を変えて読みやすいだけではなく、美しい日本の伝統色をふんだんに使った綺麗なイラストと相まって、いきいきとした感覚が伝わってきて味わい深いです。「文学って、美しいんだな。」そう思える本です。

★「読みたいな」と思った本の予約・問い合わせは、下の図書館までお願いします。

中央図書館	☎072-627-4129	畑田町1番51号
おにクル ぶっくばーく	☎072-622-2476	駅前三丁目9番45号 おにクル内
水尾図書館	☎072-637-4416	水尾三丁目3番18号
庄栄図書館	☎072-620-1171	庄二丁目26番12号
穂積図書館	☎072-620-1056	松ヶ本町8番30号 イオンモール茨木内

編集・発行：茨木市立図書館

発行日：令和6年(2024年)10月

*本の表紙は出版社の許諾を得て掲載しています。



この印刷物は、10,000部作成し
1部あたりの単価は10.64円です。



茨木市立図書館



480-23
(生物)
2023年7月

『水族館飼育員のキッカイな日常』

なんかの菌 作 (さくら舎)

大学院で美術史専攻の作者が就職できたのは、目指す博物館ではなく、捨て身で受けた水族館でした。文系かつ生物は専門外の作者がなぜ飼育員になったのでしょうか。魚や水槽の管理、展示やイベントの企画、調査研究など飼育員として生物と向き合う様子が紹介されています。また、生物に情熱を注ぐバイタリティあふれる獣医など他の職員とのコミュニケーションを「キッカイな日常」として4コママンガを織り交ぜ、おもしろく描いています。生物だけでなく働く人も魅力的な水族館の日常を覗いてみませんか。



Fートモー-PB
(日本の小説)
2022年2月

『放課後レシピで謎解きを』

うつむきがちな探偵と駆け抜ける少女の秘密』

友井 羊 作 (集英社文庫)
(集英社)

感情のまま突っ走ってしまう夏希と、あがり症でいつもうつむいている結の2人は、料理部です。ある日、レシピ通りに作ったパンはうまく膨らみませんでした。失敗に事件性を感じた夏希は、結をひっぱって捜査にのりだします。ADHD、ヤングケアラーなどの生きづらさを抱える登場人物達やその周囲の悩みが、痛みを伴いつつも爽やかに描かれています。部内や学内で起きるトラブルを通じて、互いの悩みや良さに気づいていく、料理×青春×科学のミステリーです。



二ークロ
(日本の小説)
2023年11月

『オレンジット・ダイアリー』

黒川 裕子 作 (光村図書出版)
ともわか 絵

愛媛県宇和島市にあるみかん農園の樹々^{じゅじゅ}と、今はアフリカのガーナにいるリクは、中学3年生の幼なじみです。「夢は?」「やりたいことは?」と聞かれることにうんざりしている樹々^{じゅじゅ}と、夢はあるけれど悩みや迷いがあるリクの2人が、多様な考えや境遇の人たちとの出会いを通して成長していく物語です。日記の部分では、樹々^{じゅじゅ}から見た日常が本音も明け透けに書かれていて痛快です! 夢や進路に迷ったら、ぜひ読んでもらいたい1冊です。



セーアル
(外国の小説)
2023年7月

『クルックハイブン 義賊の学園』

J. J. アルカンジョ 作 (理論社)
橋本 恵 訳

生活のためにスリをしているガブリエルが、ある日男から財布を盗むと、とある場所に来るよう書かれたメモと電車賃しか入っておらず、逆に、行方不明の両親が残した古いコインを盗まれてしまいます。怪しみながらも指定の場所へ向かうとそこは、義賊を育てる学園「クルックハイブン」でした。学園に入学したガブリエルは、やがて仲間と共に真の悪人と対峙していくことになります。犯罪技術を学ぶ特殊な授業や、寮生活の様子にワクワクします。緻密な設定や考え尽くされたチームプレーをお楽しみください。



F-オート
(日本の小説)
2023年2月

『大嫌いな世界にさよならを』

音 はつき 作 (スターツ出版)

「消えてしまいたい」と思ったことはありますか。高校生の紘^{いと}は、他人の「消えたい」という願いが、数年前から見えるようになりました。そのせいで、友人とうまくいかなくなり、普段から他人と関わらないように過ごしています。そんなとき「消えたい」願望がゼロな佳乃^{よの}と出会います。彼女と過ごすうちに、紘^{いと}は人と向き合うことに少しずつ前向きになっていきます。つらくて苦しいときに誰かが声を掛けてくれる、気にかけてくれることの大切さが伝わる物語です。



K310
(社会)
2023年12月

『47都道府県おもしろ条例図鑑 地域の特色がよくわかる!』

長嶺 超輝 作 (旬報社)

茨木童子にも関係の深い福知山市(京都府)には、「鬼に関する調査や資料を活用して地域との交流を促す」という珍しい条例があります。条例とは「ある地域だけで守られるルール」で、県や市などの自治体が制定した決まりのことです。この本では、牛乳を飲みましょう、りんごを食べましょう、けん玉の腕をみがきましょう、コスプレをしましょう、忍者屋敷に改築しましょう等、全国の思いもよらない条例を取り上げています。読んでいくと各地の特色がわかって、きっと「へえ〜」と声が出るに違いありません。